

重症大学 一段と深刻

東教大

きよりの集會中止

東教大文学部 学生の衝突恐れ

一年三月にわたって無期断続となつておる東京教育大学文学部（入江勇起男学部長）は、九日午後一時から東京・豊谷の山形会館で全文学部集會を開き、大学の方針を説明し、学生の意見も聞く予定だったが、自治会を代表している文学部評事委員と日英系の民主化行動隊との衝突が予想されたため、八日午後中止を決定し

文学部ではこの集會の成否によつて授業再開のメドをつけようとしていたので、今後もクラス段階で学生との話し合いを積極的に行なう。今年度には卒業生を出すことを

出陣の努力目標として、九月中旬に集會を開き、おととも九月末までに授業を再開したいといつてい

日本経済 9/9 朝

東教大、授業再開さめる

東京教育大学文学部（入江勇起男学部長）は十日午前十時から緊急教授会を開き、十六日をめどに授業を再開する一事を全員一致で決めた。同学部は文部大臣から大学法の適用を示唆されている。重症紛争校で、このまま放つておいては昨年につづいて二年連続の留年となるほか、庶務の心配もでてきたため緊急に授業再開に動きかけたものだが、全共闘系の学生は、授業方針を決めておけり紛争解決には、まだたいぶ時間がかかりました。

東教大が紛争報告 国立で初めて

東京教育大学の宮崎和興学長代行は十二日、文部省で村山松雄大

学学術局長と会い、大学運営臨時措置法にもとづく坂田文相への紛争報告を手渡した。同法にもとづく紛争報告は、八月二十八日の私立同志大学につくもので、国立大学でははじめて。

報告は大学法の規定にそつて、東京筑波研究学園都市への移転反対から、四十三年六月二十六日に文学部がストにはいり、紛争が発生したことを前記。その後の紛争の経過、学生の主張、教育、研究の進捗状況などが書かれている。

現状としては「文学部は一部で原則的な授業が行なわれているが、学部全体として正常とはいえない」とし「取捨に努力中」と述べている。

大学法施行以来、約一カ月、紛争報告はまた二件。しかし村山局長は同夜「各大学で自主解決の動きや構想が出てきているので、もう少しよすを見守る」と、紛争報告の継続は、なお懸念するといつ態度を明らかにした。

文学部集會流れる

授業のメドも立たず

坂田文相から大学措置法の適用を求められた紛争、嚴重化の二つ、東京教育大学文学部（入江勇起男学部長）は、授業再開のメドをつかひなため、九日学部集會を開き、代々木同派学生が擁護するおそれがあつたため、八日夕の緊急教授会（集會）をとりやめることを決めた。これ

同学部は今月後半には授業再開しなければ、在校生の二年留年という事態も避けかねない。この急ぎに予定した東京山手教会が被るの難儀にあり、混乱が起つた場合、会場や会場周辺の人人に迷惑をかける、など。

朝日 9/9 朝

9/13 朝